

湖西市津波防災地域づくり推進計画 第4回意見交換会

～ 地域で安全な未来をつくる会 ～

開催報告

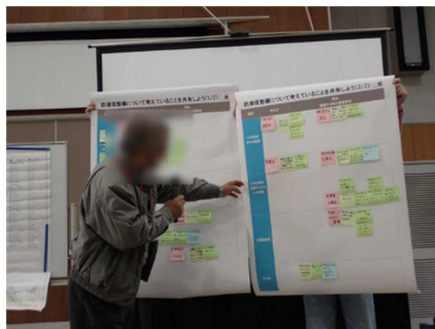
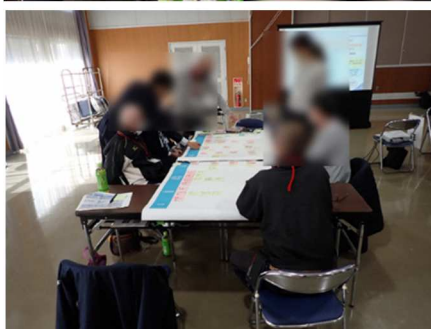
日時：令和5年12月2日(土) 9時00分～

場所：南部地区構造改善センター 多目的ホール

<次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. これまでの意見交換会の振り返り
 - ・湖西市の災害リスク
 - ・第3回意見交換会におけるご意見
4. 推進計画(案)について
5. 防潮堤整備に係る観点と現状
 - ・第3回意見交換会における意見用紙・コメントカードの振り返り
 - ・防潮堤整備に係る観点と現状
6. 意見交換
 - テーマ「防潮堤整備について考えていることを共有しよう」
7. 総括
 - 静岡大学 防災総合センター 原田賢治 准教授
8. 閉会

<意見交換会の様子>



<意見交換会における意見概要>

「①市街地の安全性」に関すること

- L2 相当の防潮堤を求める考えとしては、安心して暮らせるよう防潮堤を整備してほしい。防潮堤がなければそもそも自然環境等も守ることができない。
- 現状（既存堤防）以上を求める考えとしては、現状では不安があるため、浸水を抑えて避難できる時間を確保するための整備を行い、あわせて道路や橋梁、建物なども整備してほしい。
- 現状（既存堤防）維持を求める考えとしては、海が見えなくなることや防潮堤の安全性に対する過信による逃げ遅れ、維持管理コストの財政負担が想定されるため、整備を望まない。

「②海岸環境の保全」に関すること

- まちのイメージを壊したくない、サーファーや釣り人の楽しみを奪いたくない。
- 一方で、レジャー・観光資源としての整備は必要、海岸の維持が難しいため命の方が大事。

「③保安林環境の保全」に関すること

- 保安林は津波を弱める役割や砂、風を防ぐ機能がある中、松枯れで機能が減退しているため、植林などで機能の増進をしてほしい。
- 保安林の機能として必要なため残すことが大事、観光資源として必要。

「④生物の保全」に関すること

- 自然のバランスを一度壊すと元に戻せないから現状を維持してほしい。
- ウミガメが卵を産めなくなり、漁業にも影響が出るため、生態系の維持に配慮してほしい。
- そもそも砂浜がなくなっているので生物の保全は難しく、生物の保全よりも整備により安全度を向上してほしい。

「⑤市街地からの眺望」に関すること

- 海がある地域として育ってきたため、一定の眺望はある程度は残してほしい。
- 現状でもバイパスから眺望は望めないし、家や学校から海が見えないなど、眺望は気にしていない。眺望できる場所に移動すればよい。
- 防潮堤に散歩コースを導入するなどの新たな眺望を確保すればよい。

「⑥その他行政サービスへの影響」に関すること

- まちを存続するためにも優先して整備する必要があり、長い年月と多大な費用がかかるため、計画的に他事業と平行して実施すべき。
- 事業費以外にも構造物のメンテナンス費用は長期的な負担となる。高齢化に対応した福祉施策を優先し、整備による借金を将来世代への大きな負担として残したくないなど、他の事業・施策を優先してほしい。

「⑦整備期間」に関すること

- 地震はいつ起きるか分からないので、子どもや孫世代のために早く造ってほしい。
- 防潮堤を整備している間に津波がきたら全てが無駄になるし、時間をかけるといい加減な整備になるので、出来るだけ早く整備してほしい。
- 費用面を考慮すると長期的な整備になり、高齢化も進むため、少しずつでも積み上げて進めてほしい。
- 整備期間を定めて実施するとともに、完成までの整備途中の段階においてもソフト対策が必要。